

2025年度全国大学病院輸血技師研究会

2025年 10月 23日（木） 14：45～17：15

有明セントラルタワーホール & カンファレンス+ Web 開催

当番校

東京科学大学病院

目 次

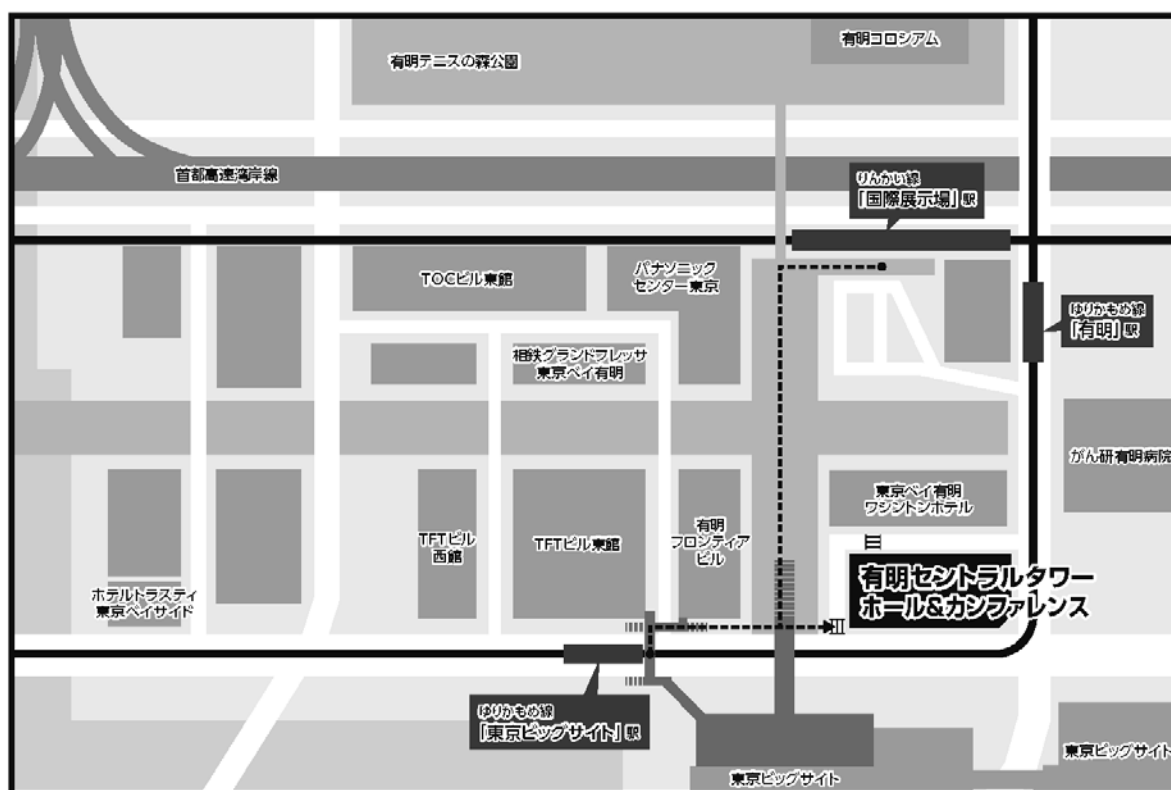
1. 会場までの交通案内.....	3
2. 会場案内.....	4
3. WEB での参加方法	5
4. 2025 年度全国大学病院輸血技師研究会《次第》	8
5. 全国大学病院輸血技師研究会 協議事項.....	9
6. 全国大学病院輸血技師研究会 報告事項.....	10
7. 全国大学病院輸血技師研究会 施設紹介.....	12
8. ワークショップ.....	13
9. その他	15
10. 全国大学病院輸血技師研究会役員名簿	16
11. 全国大学病院輸血技師研究会ブロック別施設一覧	18
12. 2025 年度全国大学病院輸血技師研究会出席者名簿.....	19
13. 平成 13 年度（2001 年度）以降の当番校リスト	21

交通案内

●有明セントラルタワー ホール&カンファレンス

〒135-0063 東京都江東区有明 3-7-18 有明セントラルタワー3F・4F (TEL: 03-6457-1480)

<https://ariake-hall.jp/access.html>



●アクセス

電車

ゆりかもめ線「東京ビッグサイト駅」徒歩4分

りんかい線「国際展示場駅」徒歩5分

車

羽田空港 約 25 分

品川駅 約 20 分

銀座駅 約20分

東京駅 約 25 分

駐車場

營業時間：24 時間營業（年中無休）

駐車場：300 円/20 分（最大 2,800 円）

入庫可能：高さ 2.1m/幅 1.9m/最低地上高 15cm

收容台数：214 台

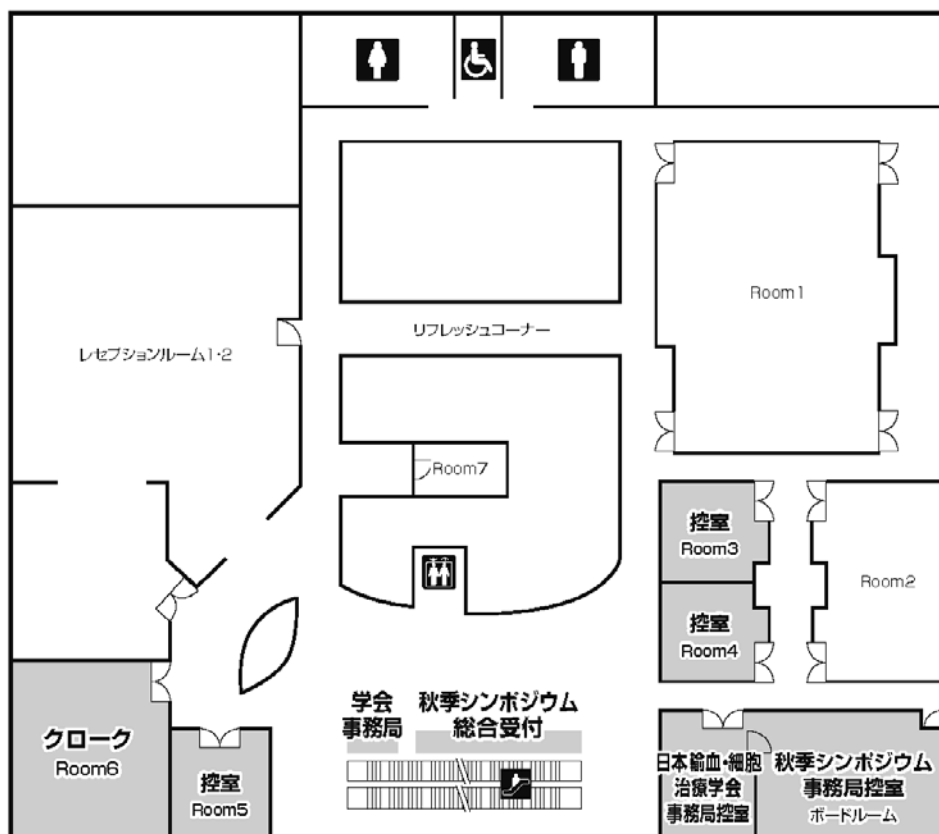
※大会からの駐車券サービスはございません。

会場案内

4F



3F



WEB での全国大学病院輸血部会議 および技師研究会への参加方法

1. 開催形式について

全国大学病院輸血部会議および技師研究会は、現地開催に加えて Zoom ミーティングによるライブ配信を行います。現地にお越しいただけない方は、Zoom からご参加ください。

参加方法は次の 2 種類に分かれます。

- 「視聴者（参加者）」
- 「発表者・投票者（施設代表者）」

同一の参加用 URL を使用しますので、それぞれの案内（次ページ以降）をご確認ください。

なお、開催中の投票は、あらかじめ事務局に登録された各施設 1 名の投票者のみが行えます。該当者は必ず「発表者・投票者」としてご参加ください。

2. Zoom 参加 URL のご案内

Zoom 参加 URL は、開催の約 1 週間前に登録メールアドレス宛へ送付いたします。

メールが届かない場合は、下記までご連絡ください。

【運営事務局】株式会社メッド

E-mail : jstmct32@med-gakkai.com

3. 通信障害時の連絡先

○輸血部会議（10 月 23・24 日のみ） TEL : 080-6270-6475

○技師研究会（10 月 23 日のみ） TEL : 080-6270-6475

※通信障害以外のお問い合わせは、下記メール宛にお願いいたします。

【2025 年度全国大学病院輸血部会議事務局】

E-mail : h-somu.adm@tmd.ac.jp

4. Zoom ミーティングの準備

会議前に、必ず Zoom ミーティングの最新版をインストールしてください。

○Zoom 最新版確認方法 : <https://ncdc.co.jp/columns/6612/>

○最新版ダウンロード : <https://zoom.us/download>

※ 最新版でない場合、通信トラブル等により視聴が不安定になる場合があります。

※ Zoom の URL を他の方へ転送したり、複数の端末から同時にアクセスしたりしないでください。

5. 入室時間について

各会議とも、開始 20 分前から入室可能です。

○技師研究会：10 月 23 日（木）14:25 開始

○輸血部会議：10 月 24 日（金）08:40 開始

視聴者（参加者）へのご案内

1. 基本ルール

視聴者は、マイクとビデオを常にミュート（OFF）にしてください。

視聴専用のため、投票権はありません。

投票は、あらかじめ事務局に登録された投票者のみが行います。

2. 入室方法

(1)事務局から送付される Zoom ミーティング URL（前述）にアクセスしてください。

(2)ブラウザ上部に表示される「Zoom Meeting を開く」ボタンをクリックし、
Zoom アプリを起動します。

(3)画面中央に表示される「コンピュータオーディオに参加する」をクリックすると入室できます。

(4)入室後、画面左下の「ミュート」および「ビデオの停止」ボタンが赤斜線（OFF）になっていることを確認してください。

(5)画面上で右クリックし、「名前の変更」から氏名（施設名）を入力してください。
→例：輸血 太郎（全国大学病院輸血部会議）

3. 視聴中のお願い

- ・発言やチャット投稿はお控えください。
- ・通信状況が不安定な場合は、他のアプリを閉じる／Wi-Fi の電波強度を確認してください。
- ・ホストの指示がある場合を除き、設定を変更しないようお願いいたします。

発表者・投票者（施設代表者）へのご案内

1. 概要

発表者・投票者（施設代表者）は、マイク・ビデオを使用して発言・画面共有が可能です。また、各施設からの正式な投票は、あらかじめ事務局に登録された1名の投票者のみが行ってください。

2. 入室方法

- (1) 事務局より送付される Zoom ミーティング URL（前述）にアクセスしてください。
- (2) ブラウザ上部に表示される「Zoom Meeting を開く」ボタンを押すと、Zoom アプリが起動します。
- (3) 「コンピュータオーディオに参加する」をクリックして入室してください。
- (4) 入室後、画面上で右クリックし「名前の変更」から、以下の形式で入力してください。
→「★氏名（施設名）」
例：★輸血 太郎（全国大学病院輸血部会議）
- (5) ビデオは常時 ON（顔出し）をお願いします。
- (6) 入室後、ホスト（事務局）が★付きの方を確認し、順次「共同ホスト」に設定します。共同ホスト設定後は、画面共有やミュート解除が可能になります。

3. 投票について

投票は、事務局に登録された投票者1名のみが行ってください。
画面下の「リアクション」→「挙手」をクリックして投票します。
議長が確認後、「手を下ろす」操作をお願いいたします。

4. 参加環境

- (1) 静かな環境からご参加ください。
- (2) LAN ケーブル接続を推奨します（Wi-Fi 利用時は電波強度を確認）。
- (3) 同室で複数端末から接続する場合は、イヤホンまたはヘッドセットを使用し、ハウリングを防止してください。
- (4) 動画を提示する場合は、ストリーミングサイトからではなく、PC 内に保存した動画ファイルを再生してください。
- (5) できるだけ高性能な PC の使用を推奨します。

5. 発表・発言時の注意

発言時はミュートを解除し、「質問があります」とお伝えください。
議長からの許可を得た後、施設名と氏名を名乗ってから発言してください。
スライド提示の際は Zoom の「画面共有」機能を使用し、発言後は再びミュートに戻してください。

2025 年度全国大学病院輸血技師研究会 《次第》

日 時：2025 年 10 月 23 日（木） 14：45 ～ 17：15

会 場：有明セントラルタワーホール&カンファレンス ホール B

1. 開会の挨拶 (14：45～14：50)
1) 当番校挨拶 東京科学大学 大友 直樹
2) 代表挨拶

2. 協議事項 (14：50～15：00)
1) 2024 年度技師研究会議事録について
2) 役員の選任について
3) 多施設共同研究の提案について
4) その他

3. 報告事項 (15：00～15：40)
1) 2024 年度業務量調査報告 札幌医科大学 村井 良精
2) 各種調査報告
① 凍結細胞バッグ破損や細胞処理等に関する調査（追加報告） 東海大学 池田 瞳
② 小児患者の院内輸血製剤分割運用に関する調査報告 東海大学 大崎 宏太
3) 次世代リーダー育成 WG 活動報告 信州大学 小嶋 俊介

休 憩

4. 施設紹介 (15：50～16：05)
「九州大学病院 検査部輸血検査室／遺伝子細胞療法部検査部門のご紹介」 九州大学 藤野 恵子

5. ワークショップ：次世代リーダーからの提案 (16：05～17：00)
(座長) 信州大学 小嶋 俊介
大阪大学 清川 知子
1) 業務拡大に伴う若年層の課題とリーダーとしての対策 藤田医科大学 小嶋 隼人
2) 輸血部門のみで当直業務を行うようにするための提案(メリット・デメリット) 高知大学 藤原 晴美

6. その他（周知事項等） (17：00～17：15)
「CAD 新規治療薬（スチムリマブ）適応患者の早期診断に向けて～CAD 関連検査法の解説～」 大阪大学 細川 美香

次回当番校の挨拶 福島県立医科大学 皆川 敬治

協議 3.

AI を用いた輸血療法の改善に向けた取り組み

藤田医科大学病院 輸血部

石原裕也、松浦秀哲

背景・目的：現在、様々な分野において、AI が活用されている一方、輸血療法における AI の実用化は十分に進んでいない。本研究分野の研究者が少ないこと、大規模データを取得することで AI の精度向上が期待されることから、我々は、輸血療法の最適化を目的とした AI 活用のための多施設共同研究を構想した。本研究では、輸血療法における AI の利活用および社会実装の基盤を構築することを目指す。

内容：

①AI を用いた輸血投与効果の予測

AI を用いて患者情報や採血結果から新しい効果判定方法を確立することで輸血効果を高精度に予測できる。それは適正な輸血用血液製剤の使用につながる。

②幹細胞採取時の採取前およびバック中の CD34 陽性細胞数の予測

G-CSF 等を投与しても CD34 陽性細胞が末梢血中に十分に動員されない場合や、採取後に目標細胞数に達しない場合がある。AI を用いることで、複数の因子の影響を考慮しながら、CD34 陽性細胞数や収量を正確に予測出来るのではないかと考えている。

上記は一例であり、共同研究参加施設と協力しながら、具体的な検討内容をこれから精査、決定していきたいと考える。本研究は、多施設の協力により、データ量と多様性を確保し、AI による精度の高い予測モデルを構築し、臨床応用への橋渡しを目指す。研究にご関心のある施設、臨床検査技師の皆様には、共同研究への参加をご検討いただき、前向きなご協力をお願いしたい。

報告 2-1.

凍結バッグ破損や細胞処理の実態－アンケート調査から－

東海大学医学部附属病院 臨床検査技術科 輸血室

池田 瞳

造血幹細胞移植は、血液や免疫系疾患に対する治療法として広く実施されている。造血幹細胞移植では造血幹細胞の採取、処理、保存、輸注の過程があり、各過程を適切に実施していくことが肝要である。また、免疫細胞療法では凍結された細胞加工製品を取り扱う。それらの取り扱い時に、予期せぬトラブルを経験することがあるが、可能な限りトラブルは回避したい事例である。そこで昨年、大学病院輸血部会議技師研究会にて凍結細胞バッグ破損や細胞処理等に関するアンケート調査を行ったので、結果を報告する。

【アンケート内容】

全国大学病院輸血部会議の技師研究会所属施設を対象に 2 回実施（アンケート①、②）し、内容は以下の通りである。

①細胞採取処理業務や凍結バッグ破損経験の有無について

②凍結バッグ破損の詳細な内容について

なお、②については、①において「凍結バッグ破損経験の有無」を問う質問に対し、「経験あり」と回答いただいた施設を対象として実施した。

【アンケート結果】

アンケートの回答率は、①104 施設中 68 施設（65.4%）、②22 施設中 16 施設（72.7%）であった。

①において、68 施設の回答のうち、造血幹細胞移植や免疫細胞療法を実施されている施設は 64 施設（94.1%）であった。実施 64 施設のうち、凍結バッグ破損経験や解凍時の内容液漏れといったトラブル経験施設数は 22 施設（34.4%）であった。

②において、16 施設の回答のうち、末梢血幹細胞バッグの破損経験施設は 14 施設、臍帯血バッグの破損経験施設は 2 施設であり、その他の細胞製剤のバッグ破損に関する回答はなかった。バッグ破損経験後の対策として、細胞凍結保存の作業工程の見直しや、資材の変更、外観確認の強化などの回答があった。

【まとめ】

全国大学病院輸血部技師研究会にて行ったアンケート調査により大学病院における細胞処理方法や凍結細胞バッグ破損の経験等に関する実情を調査することができた。細胞処理時のトラブルとして複数回答された内容は特に注意すべき事例と捉え、各施設におけるトラブル回避の一助としていただければ幸いである。

報告 2-2.

小児患者の院内血液製剤分割運用についてのアンケート調査

東海大学医学部附属病院 臨床検査技術科 輸血室

大崎 宏太

新生児を含む小児患者では、年齢や体格により 1 回の輸血量が少量となる場合が多いことに加え、ドナー暴露数や廃棄量を削減する目的で院内での血液製剤の分割を実施することがある。また、小児患者に対して安全な輸血療法を行うため、各施設の状況に応じた独自のルールで院内分割を実施していることが推測される。今回、全国の大学病院における小児患者を対象とした院内血液製剤分割の運用について情報共有を目的にアンケート調査を実施したので報告する。

アンケート

アンケートは全国大学病院輸血部会議の技師研究会所属 103 施設を対象に Google Form を利用して実施した。アンケート設問は 22 問で、回答期間は 9 月 16 日から 9 月 26 日とした。

アンケート結果

103 施設中 65 施設の回答が得られ回答率は 65 施設 (63.1%) であった。小児患者に対し院内で血液製剤の分割を実施している施設は 65 施設中 59 施設 (90.8%) であった。実施していると回答のあった 59 施設で、赤血球製剤の分割を行っている施設が 58 施設 (98.3%)、新鮮凍結血漿の分割を行っている施設が 27 施設 (45.8%)、血小板製剤の分割を行っている施設は 46 施設 (78.0%) であった。また、輸血部門臨床検査技師が実施している業務について、血液製剤分割を行っている施設が 58 施設 (98.3%)、シリンジへの分取を行っている施設は 9 施設 (15.3%)、輸血フィルター処理を行っている施設が 12 施設 (20.3%)、カリウム吸着フィルター処理を行っている施設が 8 施設 (13.6%) であった。

まとめ

臨床検査技師の業務が拡大している昨今において、小児患者を対象とした院内血液製剤分割もそのうちの一つである。今回のアンケート調査により製剤ごとに実施率は異なるが、各施設における工夫や現状を把握することができた。本報告により情報共有を行うことで、小児患者を対象とした院内血液製剤分割業務を導入・拡大する施設の一助となれば幸いである。

施設紹介

九州大学病院 検査部輸血検査室/遺伝子細胞療法部検査部門のご紹介

九州大学病院 検査部 輸血検査室

藤野 恵子

九州大学病院は病床数 1,252 床、診療科数 46、1 日平均外来患者数 3,090 名の三次救急指定病院であり、救命救急センター、小児救命救急センターを有している。特定機能病院および臨床研究中核病院の承認のほか、病院機能評価、ISO15189、I&A の認定を受けている。また、造血幹細胞移植推進拠点病院に選定されている。

2023 年度の手術・移植等実施件数は、人工心肺使用の心臓・大血管手術 332 件、造血幹細胞移植 84 件、腎移植 76 件、肝移植 57 件、心移植 12 件、脾移植 6 件、血漿交換 398 件であった。輸血製剤使用量は赤血球製剤 20,897 単位、新鮮凍結血漿 19,746 単位、血小板製剤 55,915 単位、アルブミン製剤 131,455g、貯血式自己血 1,235 単位であった。当院は輸血管理料 I を取得しているが、FFP が基準を満たさないため適正使用加算の算定はできていない。先進的医療を積極的に実施している施設として、条件の見直しを期待している。

当院では、輸血に関する業務を検査部の「輸血検査室」と、遺伝子・細胞療法部の「輸血センター」および「検査部門」で担っている。「輸血検査室」では検査技師 7 名が、基本的な輸血検査と製剤管理業務を実施している。「輸血センター」では医師、看護師、臨床工学士が、患者さんを相手とした貯血、血漿交換、アフエレーシス等を実施している。「遺伝子・細胞療法部検査部門」では検査技師 5 名が、フローサイトメトリー検査および HLA 検査を実施している。CAR-T 細胞療法に関して、当院は MCPC (Molecular and Cell Processing Center) を有することから、検査技師が関わるのは、アフエレーシス前および採取産物の CD3 陽性細胞数測定（「遺伝子・細胞療法部検査部門」が実施）と、システムへの登録とラベル発行・投与記録保管（「輸血検査室」が実施）の部分だけである。

検査部の時間外業務は 2 交代制（夜勤 16:30～10:00、日勤 8:30～17:15）であり、輸血担当 1 名と検体検査担当 1 名の計 2 名が時間外検査室で業務にあたる。新人は入職後最初の 3 ヶ月で①輸血、②血液・凝固、③化学・受付をローテーションして基本的なスキルを習得し、4 ヶ月目から時間外業務に従事する。輸血業務については輸血非専任技師が多く従事することから、「輸血検査室」の専任技師による待機当番で業務のサポートを実施している。基本的には電話での口頭指示でサポートするが、出勤となる事例も月に 2～3 回発生している。「遺伝子・細胞療法部検査部門」の技師は上記の検査部時間外業務には従事しないが、脳死移植対応のための待機当番制度があり、1 人あたり月 1～2 回の出勤が発生している。

当院の組織図では、検査部、遺伝子・細胞療法部、そして病理部がそれぞれ独立した部門として存在している。このこと自体は今後も変わらないが、現在検査技師を中心に、これら 3 部門を“検査部門”として一元管理する体制の構築が進んでいる。これに伴い、検査部⇄遺伝子・細胞療法部間での技師の異動も始まった。今後は「輸血検査室」と「遺伝子・細胞療法部検査部門」との間で業務連携を強化し、さらなる業務の充実や技師のスキルアップに取り組んでいきたい。

業務拡大に伴う若年層の課題とリーダーとしての対策

藤田医科大学病院 輸血部

小嶋隼人

【背景】現在当院では輸血部門のみで22名の検査技師という大きな人員構成にて業務を遂行している。それに合わせる形で輸血管理・検査を超えて多くの業務拡大が進行している。

【課題】拡大業務を行うのは比較的輸血部門歴の長いスタッフが優先的であり、輸血部門全体で人数が多くとも、細かい業務に焦点を当てれば人数不足が起きており、業務の属人化が起きている状況が課題点であると演者は考えている。その要因の一部として現在在籍するスタッフのうち輸血部門歴が3年以下のスタッフは10名であり輸血部門歴の浅いスタッフが半数近くを占め、定常業務を超えて拡大している業務に手を付けにくい状況が考えられる。

【提案】演者が提案するのは輸血部歴の浅いスタッフに対する拡大業務の教育を業務時間内で行える体制を樹立する、というものである。これができれば改善の一助になると考えている。例えば勉強・研修会を行うのは曜日・時間を設定した定期開催にすることで、それに備えて定常業務を軽薄にすることなく、かつ研修を確実に行える。これは現在のスタッフ数に恵まれた今だからこそできると考える。教育目的は大きく①定常業務強化②拡大業務の教育の2つに分ける。

【期待される成果】主に担当者は所謂ベテラン枠ではなく輸血部門歴3~5年のスタッフをターゲットに行うことで、教えられる側・教える側双方同時にスキルアップが見込め、業務に落とし込んで定期的に勉強会・研修会を開催し、定常業務の強化を迅速に行うこと、さらには拡大業務へ全体的にシフトしやすい環境を構成できる点に期待がもてる。

輸血部門のみで当直業務を行うようにするための提案 (メリット・デメリット)

高知大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部

藤原晴美

【はじめに】輸血部門のみで当直業務を実施することで、安全な輸血療法の提供のメリットは大きくなる。一方で、解決が困難な課題がある。今回、当直業務を輸血部門のみで実施していた浜松医科大学附属病院（前院）での経験、輸血と検査業務を1名で実施している高知大学医学部附属病院（本院）での現状について比較し、本議題の解決策を提案する。

【施設の比較】前院における輸血部門の技師数は10名、当直を全て輸血部門のみで実施しているため、日常的に約2～3名が休みとなる態勢であった。本院の輸血部門の技師数は4名、当直業務は1名で輸血と検査を兼務し技師31名により運用している。

【輸血部門のみの当直業務のメリット】24時間、安全に血液製剤を安定的に提供可能となる点が最大のメリットと考える。具体的には、①スムーズな緊急輸血対応、②不規則抗体精査、③輸血副反応発生時の対応、④血液製剤・血漿分画製剤の搬送、⑤分割製剤の作製・対応、⑥迅速検査、⑦臨床からの質問に対する対応が可能となる。しかし、最大の課題が輸血部門の要員の確保となる。週に1回当直を実施する場合、最低7名は要員が必要となる。

【解決案】本院での状況を考えると2段階で対応していく必要がある。1段階目は、当直を輸血と検査各1名で実施する。2段階目は、輸血部門の要員を増やし実現する。しかし本院で実現が困難な最大の原因は人件費、コストである。

【実現に向けて】本課題は、各施設で対策と併せて学会本体とタッグを組み対応すべきと考える。今回、本課題への実現に向けた解決案を提示しフロアと共に問題解決を考えていきたい。

その他

CAD 新規治療薬（スチムリマブ）適応患者の適切な診断に向けて ～CAD 関連検査法の解説～

大阪大学医学部附属病院 輸血・細胞療法部

細川 美香

寒冷凝集素症（cold agglutinin disease : CAD）は自己免疫性溶血性貧血の一病型であり、寒冷凝集素（cold agglutinin : CA）の作用により補体古典的経路が活性化し、溶血および循環障害を呈する稀少疾患である。病的意義を有する CA は 29℃付近でも赤血球を凝集させ、末梢循環での温度低下に伴い血管障害や溶血を引き起こすことが知られている。従来、CAD に対する有効な治療法は乏しく、寒冷回避など支持療法による管理が中心であった。しかし 2022 年 6 月、補体 C1s 阻害薬 sutimlimab（Enjaymo®）が国内承認され、CAD 治療は新たな段階に入った。sutimlimab は古典的補体経路に特異的な C1s を標的とするヒト化 IgG4 モノクローナル抗体であり、C4 開裂を阻害することで補体活性化を介した溶血を抑制する。

診断に関しては、「自己免疫性溶血性貧血診療の参照ガイド（令和 4 年度改訂版）」において、直接抗グロブリン試験（DAT）で C3d（±IgG）陽性の場合に CAD を疑い、さらに CA 価 64 倍以上かつ直接凝集試験（DAgT）陽性であれば CAD と診断すると示されている。しかし CA 価測定法には国内法（臨床検査法提要 改訂第 33 版）と海外標準法（Immune Hemolytic Anemias）で差異があり、診断に支障をきたす可能性が指摘される。特に sutimlimab 登場後は、治療適応を適切に判断するためにも正確かつ標準化された検査法の確立が不可欠である。

さらに、Immune Hemolytic Anemias では温度作動域の評価が推奨されているが、日常検査としては現実的でない。そこで室温での反応性を簡便に評価できる DAgT を温度作動域の代替指標として用いることが有用と考えられる。

全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2025 年度)

役職	氏名	所属
代表	大友 直 樹	東京科学大学
副代表(渉外)	名 倉 豊	東京大学
副代表(学術)	松 浦 秀 哲	藤田医科大学
庶務	福 吉 葉 子	熊本大学
渉外	池 本 純 子	兵庫医科大学
業務量調査担当	村 井 良 精	札幌医科大学
私立大学担当	嘉 成 孝 志	東京医科大学
(会計)	名 倉 豊	東京大学)
<ブロック代表>		
北海道東北ブロック	奈良崎 正俊	山形大学
北関東信越ブロック	小 嶋 俊 介	信州大学
南関東山梨ブロック	杉 本 達 哉	東海大学
東京ブロック	嘉 成 孝 志	東京医科大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	清 川 知 子	大阪大学
中国四国ブロック	土 居 靖 和	愛媛大学
九州ブロック	福 吉 葉 子	熊本大学
2025 年度当番校	相 川 佳 子	東京科学大学
(相談役)	山 田 尚 友	佐賀大学

2024.10.17

全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2026 年度)

役職	氏名	所属
代表	大友 直 樹	東京科学大学
副代表(渉外)	名 倉 豊	東京大学
副代表(学術)	松 浦 秀 哲	藤田医科大学
庶務担当(渉外兼務)	池 本 純 子	兵庫医科大学
業務量調査担当	村 井 良 精	札幌医科大学
(会計)	名 倉 豊	東京大学)
<ブロック代表>		
北海道東北ブロック	奈良崎 正俊	山形大学
北関東信越ブロック	小 嶋 俊 介	信州大学
南関東山梨ブロック	杉 本 達 哉	東海大学
東京ブロック	嘉 成 孝 志	東京医科大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	清 川 知 子	大阪大学
中国四国ブロック	土 居 靖 和	愛媛大学
九州ブロック	山田 麻里江	佐賀大学
2026 年度当番校	皆 川 敬 治	福島県立医科大学
(相談役)	—	

2025.10.23

全国大学病院輸血技師研究会 ブロック別施設一覧

2025 年 10 月 23 日 現在

<u>北海道・東北ブロック</u> 1 北海道大学病院 2 旭川医科大学病院 3 弘前大学医学部附属病院 4 東北大学病院 5 秋田大学医学部附属病院 6 <u>山形大学医学部附属病院</u> 7 札幌医科大学附属病院 8 福島県立医科大学附属病院 9 岩手医科大学附属病院 10 東北医科薬科大学病院 11 福島県立医科大学会津医療センター	<u>北関東信越ブロック</u> 1 筑波大学附属病院 2 群馬大学医学部附属病院 3 新潟大学医歯学総合病院 4 <u>信州大学医学部附属病院</u> 5 防衛医科大学校病院 6 自治医科大学附属病院 7 自治医科大学附属さいたま医療センター 8 獨協医科大学病院 9 埼玉医科大学病院 10 埼玉医科大学総合医療センター 11 埼玉医科大学国際医療センター 12 東京医科大学茨城医療センター 13 獨協医科大学埼玉医療センター	<u>南関東山梨ブロック</u> 1 千葉大学医学部附属病院 2 山梨大学医学部附属病院 3 横浜市立大学附属病院 4 北里大学病院 5 昭和医科大学藤が丘病院 6 帝京大学ちば総合医療センター 7 <u>東海大学医学部附属病院</u> 8 東京女子医科大学八千代医療センター 9 聖マリアンナ医科大学病院 10 横浜市立大学附属市民総合医療センター 11 東京慈恵会医科大学附属柏病院 12 東邦大学医療センター佐倉病院 13 順天堂大学医学部附属浦安病院 14 昭和医科大学横浜市北部病院 15 帝京大学医学部附属溝口病院
<u>東京ブロック</u> 1 東京大学医学部附属病院 2 東京大学医科学研究所附属病院 3 東京科学大学病院 4 杏林大学医学部附属病院 5 慶應義塾大学病院 6 順天堂大学医学部附属順天堂医院 7 昭和医科大学病院 8 帝京大学医学部附属病院 9 東京医科大学病院 10 <u>東京医科大学八王子医療センター</u> 11 東京慈恵会医科大学附属病院 12 東京女子医科大学病院 13 東邦大学医療センター大森病院 14 東邦大学医療センター大橋病院 15 日本医科大学付属病院 16 日本大学医学部附属板橋病院 17 順天堂大学医学部附属練馬病院 18 東海大学医学部付属八王子病院	<u>東海・北陸ブロック</u> 1 金沢大学附属病院 2 岐阜大学医学部附属病院 3 名古屋大学医学部附属病院 4 三重大学医学部附属病院 5 浜松医科大学医学部附属病院 6 富山大学附属病院 7 <u>福井大学医学部附属病院</u> 8 名古屋市立大学病院 9 金沢医科大学病院 10 愛知医科大学病院 11 藤田医科大学病院 12 順天堂大学医学部附属静岡病院	<u>近畿ブロック</u> 1 京都大学医学部附属病院 2 <u>大阪大学医学部附属病院</u> 3 神戸大学医学部附属病院 4 滋賀医科大学医学部附属病院 5 京都府立医科大学附属病院 6 大阪公立大学医学部附属病院 7 奈良県立医科大学附属病院 8 和歌山県立医科大学附属病院 9 大阪医科薬科大学病院 10 関西医科大学附属病院 11 関西医科大学総合医療センター 12 近畿大学病院 13 兵庫医科大学病院
<u>中国四国ブロック</u> 1 鳥取大学医学部附属病院 2 岡山大学病院 3 広島大学病院 4 山口大学医学部附属病院 5 徳島大学病院 6 <u>愛媛大学医学部附属病院</u> 7 島根大学医学部附属病院 8 高知大学医学部附属病院 9 香川大学医学部附属病院 10 川崎医科大学附属病院	<u>九州 ブロック</u> 1 九州大学病院 2 長崎大学病院 3 熊本大学病院 4 鹿児島大学病院 5 琉球大学病院 6 宮崎大学医学部附属病院 7 <u>佐賀大学医学部附属病院</u> 8 天分大学医学部附属病院 9 久留米大学病院 10 福岡大学病院 11 産業医科大学病院	

太字下線：ブロック代表の在籍施設

2025年度 全国大学病院輸血技師研究会 出席者名簿

施設名	出席者 (太字：現地参加者) (医：医師・(看：看護師			
北海道大学病院	櫻澤 貴代	佐々木 麻記		
旭川医科大学病院	佐渡 正敏	大塚 浩平		
弘前大学医学部附属病院	金子 なつき			
東北大学病院	関 修			
秋田大学医学部附属病院	奈良 美保 (医	佐藤 郁恵	田仲 宏充	
山形大学医学部附属病院	奈良崎 正俊	石山 裕子		
筑波大学附属病院	新井 裕介			
群馬大学医学部附属病院	小川 孔幸 (医	糸井 悠晏		
千葉大学医学部附属病院	長谷川 浩子	尾坂 竜也	吉澤 早紀	仁田 亜以乃
東京大学医学部附属病院	名倉 豊	昆 雅士		
東京大学医科学研究所附属病院	高橋 敦子	尾上 和夫		
東京科学大学病院	大友 直樹	相川 佳子		
新潟大学医歯学総合病院	上村 正巳			
金沢大学附属病院	佐藤 英洋			
山梨大学医学部附属病院	中嶋 ゆう子			
信州大学医学部附属病院	小嶋 俊介	竹澤 由夏		
岐阜大学医学部附属病院	浅野 栄太			
名古屋大学医学部附属病院	渡邊 友美	加藤 千秋		
三重大学医学部附属病院	角屋 佳苗			
京都大学医学部附属病院	丹羽 紀実	加藤 陽乃		
大阪大学医学部附属病院	清川 知子	細川 美香		
神戸大学医学部附属病院	早川 郁代			
鳥取大学医学部附属病院	小島 奈央			
岡山大学病院	浅野 尚美			
広島大学病院	野間 慎尋	山岡 愛子		
山口大学医学部附属病院	中邑 幸伸 (医	渡邊 理香		
徳島大学病院	瀧本 朋美			
愛媛大学医学部附属病院	土居 靖和			
九州大学病院	藤野 恵子			
長崎大学病院	古賀 嘉人			
熊本大学病院	笹田 景子	福吉 葉子		
鹿児島大学病院	外室 喜英			
琉球大学病院	宮城 理子 (医	長嶺 陽人		
浜松医科大学医学部附属病院	石塚 恵子			
滋賀医科大学医学部附属病院	内林 佐知子			
宮崎大学医学部附属病院	坂元 あい子			
富山大学附属病院	杉江 和茂	富山 隆介		
島根大学医学部附属病院	石原 智子			
高知大学医学部附属病院	藤原 晴美	津野 晃正		
佐賀大学医学部附属病院	山田 麻里江	山田 尚友	中尾 真実	
大分大学医学部附属病院	古賀 紳也	赤坂 理恵子		
福井大学医学部附属病院	海老田 ゆみえ			
香川大学医学部附属病院	内田 俊平 (医	田中 幸栄		
防衛医科大学校病院	小森 幸子			
札幌医科大学附属病院	村井 良精			
福島県立医科大学附属病院	皆川 敬治	渡邊 万央	小野 智	
横浜市立大学附属病院	原田 佐保	水渡 あす香		
名古屋市中立大学病院	南里 隆憲			
京都府立医科大学附属病院	井上 寛之			
大阪公立大学医学部附属病院	安保 浩二	川原 宏恵		
奈良県立医科大学附属病院	大前 和人	山口 直子		

施設名	出席者 (太字：現地参加者) (医：医師・(看：看護師			
和歌山県立医科大学附属病院	堀端 容子	神藤 洋次		
岩手医科大学附属病院	高橋 蓮	高館 潤子		
自治医科大学附属病院	大槻 郁子	尾島 佐恵子		
自治医科大学附属さいたま医療センター	清水 咲子			
獨協医科大学病院	山川 朋世			
埼玉医科大学病院	山田 攻			
埼玉医科大学総合医療センター	野呂 光恵			
埼玉医科大学国際医療センター	松本 愼二			
北里大学病院	岩切 文子	横田 喜之		
杏林大学医学部付属病院	牧野 博	落合 彩乃		
慶應義塾大学病院	五十嵐 靖浩	松岡 牧		
順天堂大学医学部附属順天堂医院	降田 喜昭			
昭和医科大学病院	栗林 浩子	宇津木 青空	岩村 ちなみ	
昭和医科大学藤が丘病院	小池 紗恵子			
帝京大学医学部附属病院	前島 理恵子	成田 圭吾		
帝京大学ちば総合医療センター	山本 喜則			
東海大学医学部付属病院	板垣 浩行	大崎 宏太	池田 瞳	
東京医科大学病院	市川 喜美子	和地 汐里		
東京医科大学八王子医療センター	嘉成 孝志			
東京慈恵会医科大学附属病院	堀 淑恵			
東京女子医科大学病院	久保田 友晶			
東京女子医科大学八千代医療センター	杉野 智広			
東邦大学医療センター大森病院	鈴木 大夢			
東邦大学医療センター大橋病院	加藤 禎			
東京医科大学茨城医療センター	下野 真義			
日本医科大学付属病院	黒岩 優輝			
聖マリアンナ医科大学病院	鈴木 昌行	情野 未奈		
金沢医科大学病院	香林 優佳			
愛知医科大学病院	片井 明子			
藤田医科大学病院	松浦 秀哲	石原 裕也		
大阪医科大学病院	鴨川 康代	入道 諒祐		
関西医科大学附属病院	山岡 学	阿部 操		
関西医科大学総合医療センター	吉川 美代子			
近畿大学病院	前田 岳宏			
兵庫医科大学病院	池本 純子	杉山 寛貴		
川崎医科大学附属病院	仲井 富久江	文屋 涼子		
久留米大学病院	藤好 麻衣			
福岡大学病院	嶋田 裕史			
産業医科大学病院	西野 達士			
日本大学医学部附属板橋病院	並木 浩信	檀野 裕子		
順天堂大学医学部附属練馬病院	市川 佳世子			
順天堂大学医学部附属静岡病院	猪口 明実			
横浜市立大学附属市民総合医療センター	中村 和代			
東京慈恵会医科大学附属柏病院	市井 直美	石橋 美由紀		
東邦大学医療センター佐倉病院	蓮沼 秀和			
順天堂大学医学部附属浦安病院	多田 直記			
東北医科大学病院	長岡 裕李			
昭和医科大学横浜市北部病院	佐々木 かよ子	下山 瑞貴		
福島県立医科大学会津医療センター	渡部 和也	小原 真理		
東海大学医学部附属八王子病院	杉本 達哉	小池 慶一		
帝京大学医学部附属溝口病院	鈴木 佑理			
獨協医科大学埼玉医療センター	鳥山 満			

平成13年（2001年度）以降 当番校リスト

回	開催年度	開催日	担当校
11	平成13年度	2001年9月28日	秋田大学
12	平成14年度	2002年11月22日	筑波大学
13	平成15年度	2003年11月21日	高知大学
14	平成16年度	2004年10月18日	琉球大学
15	平成17年度	2005年10月20日	福井大学
16	平成18年度	2006年10月2日	北海道大学、旭川大学
17	平成19年度	2007年10月4日	香川大学
18	平成20年度	2008年10月2日	大阪大学
19	平成21年度	2009年11月14日	浜松医科大学
20	平成22年度	2010年9月21日	熊本大学
21	平成23年度	2011年10月20日	自治医科大学
22	平成24年度	2012年11月15日	川崎医科大学
23	平成25年度	2013年10月20日	北海道大学
24	平成26年度	2014年10月17日	広島大学
25	平成27年度	2015年10月22日	信州大学
26	平成28年度	2016年10月6日	富山大学
27	平成29年度	2017年10月11日	大分大学
28	平成30年度	2018年10月18日	弘前大学
29	2019年度	2019年11月14日	東京女子医科大学
30	2020年度	2020年10月22日	三重大学
31	2021年度	2021年10月7日	名古屋大学
32	2022年度	2022年10月27日	東京大学医科学研究所
33	2023年度	2023年10月25日	佐賀大学
34	2024年度	2024年10月17日	埼玉医科大学
35	2025年度	2025年10月23日	東京科学大学

MEMO